発行日：2013年12月11日
発行　：公益社団法人 Civic Force
〒102-0074 東京都千代田区九段南
4-7-16 市ヶ谷KTビル8階
TEL　：03-5213-4930
e-mail：info@civic-force.org
URL　：http://www.civic-force.org

CIVIC FORCE

Monthly Report vol.33

台風30号で特に大きな被害を受けたフィリピン中部レイテ島北部にあるアランアラン市。雨の中、列を作って待つ被災者に対し、米や油、ビニールシートなどが入った緊急支援物資を配布しました

フィリピン台風 緊急支援物資配布

11月8日に発生した大型台風30号の影響で、フィリピン中部のレイテ島、サマール島などで、死者・行方不明者7200人以上にのぼる甚大な被害が発生しました。フィリピン政府の発表によると、何らかの被害を受けた被災者数は、フィリピン総人口の1割強に当たる1400万人以上。発災から1カ月以上が経過した現在も多くの人が、避難所やがれきと化した自宅周辺などで暮らしています。

勢力を保ったまま上陸した今回の台風は、最大瞬間風速105メートルを観測。台風の上陸時史上世界最高規模で、強い竜巻並みの暴風雨に加え、津波のような大きな高潮が発生したことが、被害をさらに拡大させたとみられています。また、被害があったレイテ島などは、貧困層が多く暮らし、災害対策の甘さも指摘されています。もともと住民の多くが海抜の低い沿岸部に住居を構えていた上に、都市部の急速な開発と経済成長の影響で貧困層の沿岸部への進出が加速し、人口の半数以上は沿岸部の粗末な家で暮らしていたことも被害の増大につながったと言われています。

通信網や道路が各地で寸断され、支援活動も苦戦を強いられています。マニラなどから被災した島々へ送る支援物資の出荷手続きの遅れや、被災地へのフェリー・配布物資を運ぶトラックの調達の難航、配給ポイントに行くまでの治安悪化などが課題となっています。

レイテ島出身のクララ・ブリソさん（62歳）は、「米農家として生計を立てていましたが、台風で収穫した米がすべて損失し、次にまく種も失って、これからどう生活していけばいいのか」と話しています。また、ロメル・ルイネイさん（42歳）は、「幹線道路から奥に入った地域に住んでいるため、支援物資はほとんど届かず、11月15日にヘリコプターから落とされた食糧が、発災後初めて手にした唯一の支援物資」と必死に生きてきた事情を伝えてくれました。

大規模な被害状況を受けて、シビックフォースは、11月11日からフィリピン寄付の指定口座を開設するとともに、15日からフィリピン出身者を含むスタッフを派遣し、緊急支援物資の配布活動を続けています。今月のマンスリーレポートでは、フィリピン台風支援について、発災直後から今日までの動きについてご報告します。

Monthly Topics

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

レイテ3地域で物資配布

「今まで経験したなかでこれほど悲惨な現場はなく、こんなに難しいオペレーションはない」――台風30号で甚大な被害を受けたフィリピン中部サマール島とレイテ島で、発災直後から現地調査を続けたカルロス・パドリナさん。シビックフォースのパートナーでフィリピン各地に支部を持つ災害支援団体「CDRC(Citizens' Disaster Response Center)」の事務局次長である彼によれば、「被災地では何もかも不足し、配布サービスが機能していなかった」と言います。

道路が寸断されたことでヘリでしかアクセスできない孤立地域が生まれ、このような地域では、安全な飲み水すら確保できないほか、亡くなった方々の遺体を搬送できず、衛生状態も悪化しています。こうした中、レイテ島では、CDRCの地域支部、レイテ開発センター（LCDE）のスタッフたちが、自らも被災し、住む家もない過酷な環境の下、支援にあたっています。

発災以前からCDRCとともに災害対応の連携協力をしてきたシビックフォースは、彼らの活動をサポートし、少しでも多くの物資を被災地に届けるため、11日から指定寄付口座を開設。13日には、提携する静岡県袋井市の倉庫に備蓄しているエマージェンシーテント（緊急避難用テント、最大10人収容可能）960張をセブ島経由でレイテ島に輸送したほか、15日に日本からスタッフ3人を派遣。マニラなどで物資を調達し、レイテ島東部のアランアラン市や西部のアルブエラ市などで、米や干物、毛布、ビニールシートなどのパッケージ（1世帯6人あたり1週間相当）を約1900世帯に届けました。

配布先は、調査に基づき比較的政府や他団体の支援の手が届いていない地域を中心に選定しました。

配布先の会場まで徒歩2時間かけて歩いてきたという男性は「発災から2週間、政府から配給された米2キロを地域の人と分け合い、何とか耐えてきた」と話していました。

被災者を支えてください

もうすぐクリスマス。
フィリピンの人々にとって一年で最も大切なシーズンである
この時期に、少しでも将来への希望を持てるように。。。
皆さまからのご支援をお待ちしております。

■三井住友銀行　青山支店　普通　7027403　公益社団法人 Civic Force
■クレジットカード『シビックフォース』『クレカ』で検索
■ゆうちょ　00140-6-361805　公益社団法人 Civic Force
※備考欄に「フィリピン中部台風被災者支援」と記載ください。

復旧フェーズを見据えて

一方、レイテ西岸のオルモック市やアルブエラ市の中心部では、電気や水が満足に回復していないにもかかわらず再開した商店や食堂がありますが、このまま支援物資が流入し続ければ、地元の流通市場の需要を奪いかねません。

このような問題意識から、緊急支援の次の段階でどのような支援を行えば被災地の自律的かつ持続的な復興につなげられるか、試行錯誤が始まっています。緊急時の物資支援から、ただモノや資金を提供するだけでなく、復旧・復興段階で被災者を一時的に雇用し、賃金を支払うことで地域経済の復興や被災者の自立を支援する「キャッシュ・フォー・ワーク」などの手法は、東日本大震災の復興プロセスでも見られた事例です。

シビックフォースでも、CDRCやLCDEとともに、現地のニーズに即した次のフェーズの支援を調査・検討しています。特にニーズが高いプログラムとして、学校や地域のコミュニティスペースが破壊されてしまった子どもやお年寄りへの心理的ケア、漁業や農業を主な生活の糧としていた島民への生業支援などが候補に上がっています。

漁師カレンダー販売開始

シビックフォースが設立に携わり、現在理事として参画する気仙沼市の一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」が、11月中旬から漁業の復興などを目的とした「気仙沼漁師カレンダー」の販売を開始しました。

全国のローソン店内「Loppi」やネットで購入可能。価格はB4版二つ折りで2000円（税込）。

アライアンスの一員として

今回のフィリピン台風支援は、昨年10月にアジア5カ国の災害支援団体とともに立ち上げた「アジアパシフィック アライアンス」のメンバーとして実施するもので、緊急物資の配布支援にあたっては、アライアンスのメンバーであるフィリピンの CDRC をはじめ、韓国の NGO、KDRA などと密に情報を交換し合い、被災地のニーズをくみ取りながら支援物資を配布しています。

アジアパシフィック アライアンスはアジア太平洋地域で大規模災害が起きたとき、各国・地域の企業、NGO、行政が各組織の壁を越えて連携することで、それぞれが持つ情報、人、資金、モノを各国間で共有・活用し、より迅速で効果的な支援を目指す組織です。

Face to Face

Civic Force の活動は、多くの企業や NPO、行政などの皆様に支えられています。
パートナーからの旬のメッセージをお届けします。

「今こそ忍耐力が問われている」

レイテ開発センター事務局長
ジャスミン・ジェルサレムさん

「LCDE（Leyte Center for Development：レイテ開発センター）」は、災害時の緊急支援を行うフィリピンのNPO「CDRC」の地域支部として、主に貧困層向けの開発支援や災害リスク軽減のための事業を行っています。

今回の台風でレイテ島にある私たちの事務所も被災しましたが、発災直後からCDRCと協力し、レイテを中心に政府や他団体の支援が届かない地域で緊急物資を配布しています。レイテは国内で3番目に貧しい地域で、人口の半数は漁業や農業、路上での小売業などで生計を立てていました。今後は物資配布だけでなく、仕事を失った彼らがもう一度働ける道を手助けする支援が必要です。例えば、台風で倒れたココナツの樹は生育に10年かかりますが、その間の生業支援として、より早く育ち売り物にもなる野菜の種子の提供や農業指導など、貧困層の被災者が自立するためのサポートが求められます。

私は、1999年からLCDEのスタッフとして度々緊急支援活動に携わってきましたが、これほど大きな災害は経験したことがありません。スタッフは皆、自らも被災し過酷な状況のなかで活動していますが、今こそ私たちの能力や忍耐力が問われていると感じています。引き続き、少しでも被災者の自立につながる支援を続けていきます。

レイテ島北部で緊急物資を配布。配布先の選定から配布時の混乱を防ぐための対策まで災害支援のプロとしてチームを率いる

2013 年 12 月 11 日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

中長期復興支援事業

Civic Force では、緊急時から約 1 年半にわたる支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、さらに腰を据えて取り組むため、2012 年夏から「中長期復興支援事業」を続けています。各事業の進捗状況をご報告します。
http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/choki/

■観光再生プロジェクト
～“訪れたいまち”に向けた官民協働の仕組みづくり

宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる“観光”の戦略立案をサポート。2013 年 7 月には一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」の設立に参画し理事として継続支援。

■命をつなぐ翼プロジェクト
～ヘリを活用した緊急医療搬送支援

震災以前から医療過疎が進む沿岸被災地で、医療搬送用ヘリを導入し、高度医療機関へのアクセス改善を目指す。2013 年 10 月から本格運航開始。

■共（きょうかん）“還”まちづくりプロジェクト
～地域発・住まいとしごとの創造的復興チャレンジ支援

被災地で生まれた NPO や自治体と協力し、すでに集団移転を決めた地域の新しいまちづくりや、これからまちづくりを進めていく地域で専門家派遣や人材育成などを支援。

■夢を応援プロジェクト
～奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート

東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまで、月 3 万円の奨学金を給付。11 月、仙台で奨学生交流会を開催。

■緑の“環（わ）”プロジェクト
～持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じて地域を活性化

木質バイオマスの利用を通じて持続的な社会の構築を目指すプログラム。地元企業や NPO と協力し、個人林業者の育成や木材集積場の運営、地域通貨の試験的利用の面でサポート。

NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。
2011 年 4 月からこれまでに 37 団体と 49 事業を実施。2013 年 10 月現在、5 件の事業を展開中です。
http://www.civic-force.org/emergency/higashinihon/npo/

■リアス観光創造プラットフォーム：気仙沼市の観光戦略を具現化する中核推進組織として、パイロット事業などを実施中
■nina 神石高原：福島の被災者に対し広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援
■ネットワークオレンジ：10 月に東北マルシェ開催。来年3月にコンテスト優秀者のフランス研修実施
■森は海の恋人：人と自然の共生のあり方を考え直す拠点となるような環境教育活動を展開中
■気仙沼みらい計画大沢チーム：都市計画や建築の専門家チームが集団移転と復興まちづくりをサポート

東北支援 NOW

東日本大震災支援の寄付金執行状況

東日本大震災に関する寄付金について、2013 年 11 月末日時点で約 13 億 300 万円（うち 2012 年 3 月より寄付額の 15%を運営費に充当）のご寄付をいただいています。下記 11 月末現在の執行済み金額をご報告申し上げます。金額は暫定・速報値です。寄付金は、理事会の承認に基づいて執行しています。
なお、2013 年度の決算と事業報告書はホームページで公開しています。
http://www.civic-force.org/about/

緊急・復旧支援活動	**5 億 5,652 万円**
緊急支援物資の調達・配送	2 億 3,310 万円
生活改善のための風呂設営	1,879 万円
離島へのカーフェリー就航	1,998 万円
NPO パートナー協働事業 1・2 期	1 億 6,158 万円
多目的・機能型拠点提供	7,213 万円
ボランティア受け入れ用テント	3,688 万円
復興支援調査事業	1,404 万円
復興支援活動	**3 億 9,650 万円**
基金事業	9,584 万円
企業ボランティア	260 万円
NPO パートナー協働事業 3 期～	1 億 6,831 万円
命をつなぐ翼 P*（中長期復興支援）	7,987 万円
観光再生 P（中長期復興支援）	3,157 万円
緑の環 P（中長期復興支援）	1,792 万円
共環まちづくり P（中長期復興支援）	1,340 万円
現地事業を支える経費＊	**1 億 1,183 万円**
合計：10 億 7,486 万円	

＊P= プロジェクト＊広報・資金調達に関連する費用を含む
※上記の他、ローソンと個人・団体寄付者の皆さまと協力して実施中の夢を応援プロジェクトでは 5 億 8,798 万円のご寄付をお預かりし、奨学金とサポートプログラムに 2 億 5,175 万円を執行済みです。
※1 万円以下は四捨五入

お知らせ

東京YWCAで講演

シビックフォースでは、被災地での支援活動や次の災害に備えた活動について、より多くの方に知っていただくため、各地で講演しています。11月20日、東京しごとセンター主催のセミナー「復興支援の新しい事業を知ろう～被災地の再生を多様な働き方で支援」で東北支援活動や仕事内容などについて講演しました。また、11月22日、代表理事の大西健丞が東京都医師会館で実施された第2回診療情報提供推進委員会で「緊急人道支援の現状」をテーマに講演したほか、11月30日、東京YWCA主催セミナーで「被災地支援で大切なこと」をテーマにお話しました。

「次への備え」は企業の皆様とともに

シビックフォースでは現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。その活動の多くは法人賛助会員の皆様に支えられています。多くの企業様の参加をお待ちしています。
http://www.civic-force.org/about/membership/

被災地からのメッセージ

Civic Force が東北地方で復興支援活動を開始してから、2 年 9 カ月。このコーナーでは、被災した地域で出会った方々をご紹介します。今回は、宮城県内7カ所でカフェ「アンカーコーヒー」を運営する小野寺靖忠さんに、フィリピン台風被災者への思いを聞きました。

オノデラコーポレーション専務取締役
小野寺 靖忠 さん

――― 気仙沼が被災した時、全国から寄付・支援をいただき本当にありがたかったのですが、被災者として身に染みて感じたのは、本当に必要なのはお金だということ。そこで、11 月 8 日に発生したフィリピン台風の被災者に向けて「ニーズに合った支援をしたい」との思いで、田中前店（気仙沼市）に募金箱を設置しました。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した気仙沼の人たちは、発災直後からフィリピンの人たちをすごく心配し、「あのとき助けられたから」「今こそ何かしたい」という気持ちが強く、設置から約 2 週間で 10 万円近くの寄付につながりました。微力ですが、引き続き募金箱を設置して、役立ててもらえればと思っています。寄付先は、気仙沼に貢献し、よく店舗にコーヒーを飲みに来てくれる Civic Force のスタッフがフィリピンに支援に行くと聞いて託すことにしました。

寒い気仙沼と暑いフィリピンでは、状況は違うかもしれませんが、親が職や家、財産を失うことで子どもがつらい思いをし、さらに親がみじめな気持ちになっていく悪循環に陥らないことを願っています。被災地の1日も早い復興を祈っています。